

PACS化による医療画像連携にともなう日常業務の変化と課題について

公益財団法人 宮城厚生協会 坂総合病院 ○田中 由紀 (Tanaka Yuki)

木村 文正 鈴木 拓 相澤 聡

公益財団法人 宮城厚生協会 泉病院 前谷津 文雄 曾我英治 山口さや香

【はじめに】

厚生労働省の指導もあり、全国的にフィルムレス、ペーパーレス化のために、電子カルテおよび、PACSの導入が進んできた。2012年に医療情報の確定に関するガイドラインが日本放射線技術学会から発表され、また、2011年には患者に渡す医用画像媒体についての合意事項が関係6団体から出されている。

坂総合病院では2005年の新病院建設時に、泉病院では2008年にPACSを導入し、フィルムレス化を行っている。坂病院では放射線検査、内視鏡検査、超音波検査の静止画を、泉病院では放射線検査のみをPACSに保存し、電子カルテから閲覧できるようになっている。また、長町病院では現在建設中の病院開設時2014年3月にPACSを導入し、古川民主病院では今年10月にPACSを導入した。

宮城県内でもPACSの導入が進み、坂病院、泉病院ともに紹介、逆紹介において、医用画像情報をCD-Rで受け渡すことが増えてきた。したがって、紹介患者の画像をPACSへ取り込む、また、逆紹介患者にはCD-Rを作成し渡すために、放射線部門での作業が増えてきた。

PACS化による日常業務の内容の変化を、医療画像連携を中心に検証したので報告する。

【現題】

坂病院では、平均で1日あたり5件程度の取り込み依頼件数があり、その取り込み依頼時間で多いのは診療開始直後と、11時過ぎの午前中。また、紹介時書き出し件数は平均で1日あたり3件程度、時間帯は紹介MRI検査が入る午後が多い。その他に、緊急転送のための依頼、患者希望による場合にも対応している。

泉病院では平均で1日あたり1件程度の取り込み依頼件数があり、取り込み依頼時間で多いのは診療開始直後と11時過ぎの午前中と坂病院と同様。また、紹介時書き出し件数は平均で1日あたり2件程度、紹介時書き出し時間帯は10時すぎに多く、また、午後の脳神経外科外来の時間帯や救急転送の影響から分散することもある。

坂病院では、患者が持ち込んでくるCD-RはPACSへ取り込んでから、医師が閲覧することが多い。基本的に、診察に間に合うように取込作業を行うように努力しているが、対応しきれない場合も多々ある。作業としては、ウイルスチェックを行い、他院所画像オーダーを入れ、取り込む画像と結びつけを行い、PACSへ送信する。

泉病院では、午前の取り込み依頼はウイルスチェックのあと、医師が放射線室で電子カルテではないパソコンで閲覧してもらっている。そして、午後に専任担当者がまとめて紹介入院時の取り込みと一緒にやっている。

坂病院、泉病院ともに紹介のための書き出しCD-Rなどのコピーは、緊急の場合はその都度行っている。また、次回来院時までにか、入院患者の転送までに作成を依頼されることもある。そのほかにも救急転送、他院への紹介など、日勤帯以外の時間に依頼されることもある。また、泉病院では、認知診断等の検査紹介が多く、画像をCD-Rに、そのほかにも読影レポート、統計画像レポート、診療情報提供書の作成を行い、郵送作業までを午後の業務の合間に技師全員で実施している。

【まとめ】

病院機能や外来診療科により、CD-R等の書き込み、取り込みの依頼数は変化し、年々増加している。作業も多岐になり、膨大な数となり、院内ルールで対応している状況で、担当する放射線部門の負荷は大きくなってきている。また、作業担当の人員配置は坂病院、泉病院にかかわらず、どこの病院でも問題になっている。大規模病院などで運用しているIHE-PDI規格へ対応するシステムを導入すれば、効果的ではあるが、中小病院では費用が問題になってくる。

フィルムレス化が進み、PACS導入施設が増えてくると、CD-Rで画像の受け渡しが増えてくる。どこの施設でもIHEのPDI統合プロファイルに準拠することが望ましいが、必ずしもそうではない。今後、地域医療連携システムなどのクラウド対応で診察日以前に画像が閲覧出来たり、持ち込みが可能となったり、画像データが転送できるようになれば、スムーズな画像受け渡しが可能となる。これから、医療情報は電子化、クラウド化が進み、どんどん進化していくことになると思われる。